



千代田区防災フェスタにおける広報活動



自衛隊東京地方協力本部港出張所（所長 神一陸尉）は、9月28日、日比谷公園で実施された「千代田区防災フェスタ」に参加し、自衛隊の募集広報活動を実施した。

本イベントは、千代田区が主催し、同区ならではの視点で防災を「自分ごと」と捉え、災害時に「協力しあうこと」を考える機会として実施され、区民の方、特に未来の世代となる子供たちが、防災や災害対応について知識を楽しく身に付けられる場を提供することを目的としたものだった。港出張所は、約6千人を超える来場者に対し、自衛隊ならではの防災にまつわる知識やテクニックを提供する場として、防衛省・自衛隊ブースを設置した。

本ブースでは、災害時に活用できるロープワーク、体調不良時の回復体位及び小学生未満を対象とした防災クイズ等、体験することを中心とした展示を実施した。

また、第1普通科連隊の支援により、災害時に働く車として高機動車の展示を行い、自衛隊の活動への興味関心の醸成を図った。

主に、小学生以下の子供たちを連れている方が来場され、防災体験への積極的な参加及び迷彩服を着用しての高機動車との撮影等により、会場は終始笑顔にあふれていた。

来場者からは「間近で自衛隊の車両を見ることが、実際に乗ることができたりして楽しかった」「ロープワークが非常に参考になった」などの感想が聞かれた。

港出張所は、引き続き様々なイベント等に積極的に参加し、自衛隊の魅力を発信するとともに、防衛省・自衛隊の理解促進を図り、人材の確保に取り組んでいく。

「ZELVIA KIDS DAY はたらくるま大集合！」で広報活動を実施



自衛隊東京地方協力本部（本部長 鹿子島陸将補）は10月18日、町田GIONスタジアムで開催されたサッカーJ1・第34節の町田ゼルビア対アビスパ福岡の試合会場において実施されたイベント「はたらくるま大集合！」で広報ブースを出展した。

本イベントは、ゼルビア地域振興部が子供向けイベントとして企画したものであり、自衛隊と警察及び消防に声をかけて実現した。

本広報活動では、自衛隊で活躍している車両や社会的な役割を周知し、理解の深化及び魅力化を図るため広報ブースを出展した。当日は、さわやかな秋晴れに恵まれた中、スタジアムにはサッカーファンや親子連れなどが約一万人訪れ、屋外イベント会場において、軽装甲機動車及び高機動車の展示を中心にガラポン抽選会や迷彩服・制服の試着体験コーナーを設けた。

来場者からは「自衛隊車両がかっこいい」「装備品の迫りに力強さを感じる」など多くの声援をいただくことができた。

今回の出展にあたり、プロスポーツの集客力の高さや自衛隊・警察・消防の活動並びに働く車に対する関心や期待度の高さを目の当たりにするとともに、多くの来場者に対し理解の促進を図ることができたと感じた。

東京地本は、今後も自衛隊への認識の深化を図るべく、様々なイベントを通じて魅力的な発信をする広報活動を実施していく。

大田区の区立小学校防災講話に参加



自衛隊東京地方協力本部大田出張所（所長 高橋2海尉）は10月24日、大田区に所在する区立小学校での防災講話において、警察、消防と共にゲストティーチャーとして参加した。

本講話は小学4年生128名を対象に、自衛隊・警察・消防による講話及び消火器操作法体験を1クラス約20分ずつのローテーション形式で実施したものである。

講話では、大田出張所の広報官が災害派遣活動の経験を交えながら、避難場所だけではなく家族がどこで集合するのかといったことを日頃から話し合っておくこと、ライトや笛を携行して自力で助けを求められる準備をしておくこと、さらに、地域の祭りや行事に参加し近隣住民とのつながりを深めることが災害対応力につながるなどについて、身近な視点で分かりやすく説明した。

講話後には自衛隊の任務や訓練等に関して多くの質問があり、自衛隊への関心と防災意識の高まりを強く感じることができた。警察・消防と一体となった今回の取り組みは、児童の防災意識向上のみならず、地域全体の安全に寄与する意義あるものとなった。

大田出張所では、引き続き、地域と連携した防災講話や訓練を積極的に実施し、広く自衛隊の活動や魅力を知っていただけるよう、広報活動を行っていく。